

## 下野市社会教育委員会 議事録（要旨）

審議会名等 平成 30 年度第 1 回社会教育委員会  
日 時 平成 30 年 7 月 4 日（水）9 時 30 分～11 時 30 分  
場 所 庁舎 3 階教育委員会室  
出席者 委員長 五月女 洪  
副委員長 花澤 公久  
委員 鈴木 一恵、坂口 修、齋藤 昌枝、青木 ムツミ  
橋本 眞差子、今村 陽子、大塩 宗里、菅井 貞雄  
桑島 礼二  
欠席者 委員 川島 光博、大垣 玉枝  
市側出席者 教育長 池澤 勤  
生涯学習文化課長 手塚 芳子  
生涯学習推進グループ 主幹 大門 啓美  
主査 漆原 聡  
主事 松岡 貴之  
公開・非公開の別 （ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）  
傍聴人 0 人  
報道機関 0 人  
議事録（概要）作成年月日 平成 30 年 8 月 17 日

### 議 案

- （1）社会教育委員の職務について
- （2）社会教育委員会議のスケジュールについて
- （3）社会教育関係団体に対する補助金交付にかかる意見について

### そ の 他

下野市生涯学習推進協議会委員の選出について  
栃木県社会教育委員協議会評議員及び理事の選出について  
ひと・まちづくり講演会の開催について

池澤教育長	<p>挨拶要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館振興計画への協力の御礼</li> <li>・ 道徳教育の強化などを含めた指導要領の改訂</li> <li>・ 小中一貫教育の導入</li> <li>・ 学校運営協議会の導入</li> </ul>
五月女委員長	あいさつ
花澤副委員長	あいさつ
	諮問書伝達
五月女委員長 事務局	<p>議題に沿って進める。まず議題（１）社会教育委員の職務について説明を求める。</p> <p>資料１に基づき説明</p> <p>質問はあるか</p> <p>〈質問等なし〉</p>
五月女委員長           事務局 五月女委員長	<p>社会教育は非常に守備範囲が広い。教育には「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の３つがある。行政とか上からの指導ではなく、家庭内で自分たちの子どもについては自分たちで教育していこうと。１５歳までにそうした教育はしていこうと。それが日本の家庭教育の原点だった。平成１８年度の教育法の改正によって家庭教育が教育基本法の中に位置づけられ「家庭教育」「学校教育」「社会教育」という３つの柱が教育のなかに出てきた。その一翼を担っているのが「社会教育」。その「社会教育」というのは何か。よく新聞等で「生涯教育」とある。「生涯教育」と「家庭教育」とどんな違いがあるのか。青森県は何年か前に社会教育制度を無くして生涯教育一本に絞ってしまった。ところがいろいろな弊害があった。そのために５年前に社会教育制度をもう一度見直して復活させたという例がある。皆さんご存知のように生涯教育というのは全ての教育が含まれる。「学校教育」「家庭教育」「社会教育」それからもうひとつ「企業教育」。企業で今まで社員の教育をしていた。これらの全てが生涯に亘る教育であるということで生涯教育が出来ている。「社会教育」は学校以外の教育、すなわち公民館とか、図書館、スポーツ、地域の活動。そういうものを支援していく、それが「社会教育」である。ご理解頂きたい。</p> <p>では質問が無ければ、続いて社会教育委員会のこれからのスケジュールについてお願いしたい。</p> <p>資料２に基づき説明</p> <p>スケジュールについて説明があったが、今年度どういうものを皆さんと一緒に考えていきたいかということで２６年度から２９年度までの例を挙げて頂いた。昨年度は下野市公民館振興計画を作った。そして今年</p>

	<p>度、公民館審議委員の中で評価マニュアル等これらの細案について検討して頂いている。それから28年度については家庭教育の支援の在り方、どういう風にして家庭教育を支援できるか、例えば公民館ではどうか、学校ではどうか、そういうことを話してきた。今年度これらを受けて、どのようなテーマを設定していくかということについて委員の皆様からのご意見を頂きたい。</p> <p>例えば、青少年たちを如何にまちづくりに引き込んで、協働のまちづくりを推進できるか、それからシニア世代を学校支援ボランティアとして引き込んでいく方策はどうか。</p> <p>例えば、今年度「心豊かな青少年の育成について 多様な学びを通して次世代を担う青少年を育むために」は社会教育としてどうだろうか。それから、「地域学校協働活動の具体的取り組み」について。なかなか学校の敷居が高く地域に馴染めない方も結構いると思うが、如何に地域との連携を図って地域の教育力を全体的に上げるか。学校を文化センターのような役割を持たせ地域の協働力を高めるとかいろいろあるかと思う。</p>
花澤副委員長	<p>間口が結構広いと思う。いろんな世代を含めて最終的には学校支援のボランティアの輪を広げたらいいのかということがキーポイントになる。ひとつが命の問題、いわゆる危機管理に遭遇した場合について。私が現役のときからこだわっていたのが、登下校の時、特に小学校の集団登校。今でも集団登校がなされていると思うが、悲惨な事故の例を見ると、集団登校時、車に飛び出され叩き付けられて、複数の子どもたちが犠牲になる。単独で登校させた場合に更に危険なことが想定されるので集団登校をやっているということもわかるが、社会教育の方で集団登校の時にどのような手立てが出来るか。それは具体的な方策でなく、集団登校の従来のやり方を見直して、こんなやり方もあるのではないかという考え方でもいい。自分はそこにお手伝いで、具体的に活動のところに社会教育関係、地域の方々が手助けしてくださるといってもいいのだが、私は学校の抱えているいろんな問題に対して支援ボランティアが具体的にどんなことをしたほうが学校として助かる、ありがたいかなというそんな考え方もあると思う。だからこの機会にこれもひとつの選択肢かなと思って提案した。</p>
五月女委員長	<p>今、子どもたちは集団登校と単独で登校する。しかし、昭和40年代のモータリゼーションから子どもの事故を防ぐということで集団登校が実施されているが、集団登校によると遭う事故の確率は減るが、一度に多数の死傷者が出るという例が沢山ある。それで学校として集団下校と、それに地域がどういう風に関わっていくか。中学校は自転車による登下校が多いと思う。それはやむを得ないと思う。</p>
坂口委員	<p>昨年まで小学校にいたが、小学校1、2年生はどうするのか。4年生以上の高学年になったら大丈夫かなと思うが、低学年の子に対する手立てが難しい。集団なら例えば荷物が多ければ上学年の子が持つとか、間に</p>

花澤副委員長	<p>入れて離れないように注意するので。そういうのは非常に難しい。あとは中学生ですが、中学校はそういうのはないが、自転車通学について学校では、狭い道から広い道路に出るときは一旦停止とは言っているがなかなか守れない。危険な箇所には職員が手分けして立っているが、中々人手が。そういうところを地域の方が見て頂けるとありがたい。</p> <p>今の件でひとついいか。私は朝、主に雀宮地区を歩いているが、非常に感じているのが、小学生に申し訳ないが、上級生が下級生の面倒を見ている。ただの集団登校。それはそれとしてしょうがないとは思っているが、もっと危ないのは長く一列で歩いていること。極端な例だが数えたら27人いた。それも1列で。信号が変わってしまう。交通指導員が一人いたが、交通指導員がどこにいるかわからないし、後ろで聞いていて何を言っているかわからない。この場合、自分たちで3列くらいになって渡ったほうがいいと思う。渡った後は1列になっても構わない。そういう工夫をしているところは1つもない。現実に対応できるような歩き方を自分たちもある程度は考案しないと。最終的に身を守るのは自分だ。</p>
五月女委員長 齋藤委員	<p>子どもは必ず先輩のあとを付いていくので列は長くなる。</p> <p>先ほど今までの調査研究事項を説明して頂いて今まで素晴らしい成果を挙げられていることがわかった。この場でどういうことをし、どんな課題を立てるかがすごく重要なこともわかった。課題の出し方として教育委員会の大きな課題と、ここの課題がリンクしていたらより力を発揮できるのではないかという方向性もあると思う。</p>
五月女委員長	<p>今までのテーマを見て頂ければわかるように、これまでやってこなかったのは学校の支援の在り方や青少年活動の推進。また還暦を迎えてリタイアしたシニア世代を、まちづくりに如何に巻き込んで、地域活動を推進していくことである。今まで何が欠けているかという社会教育としての学校支援の在り方がひとつ。それから青少年の地域へのまちづくりの寄与の仕方等。今年度できるなら、そこを皆さんの意見で絞って頂けるとよろしいのかなという気がする。次世代を目指す、青少年の育成について取り組んでいただけるといいという気は個人的には持っている。</p>
齋藤委員 事務局	<p>だいぶ絞れてきた。教育委員会で困っていること、課題はあるか。</p> <p>青少年教育に関すること。地域学校協働活動について具体的な取り組みを今後どうしたらいいかということが課題となっている。</p>
菅井委員	<p>それに関して先日、石橋公民館の学校支援プロジェクトの講座があり、栃木市の学校支援の取り組みの体制づくりの話聞いた。各学校に学校ボランティアと地域ボランティアのコーディネーターがいて、授業の支援や各種調整などかなり具体的な関わりをして支援する仕組みができており、今、栃木市も次々に合併しているが、全部にそれが行き渡っている。その体制ができて7年経っている。素晴らしいなと思った。下野市には個別に多少あるのかもしれないが、ないので、検討して頂くのもいいかと。そして、おそらく栃木市でやっているのは、PTAの人たちがこう</p>

五月女委員長 鈴木委員	<p>というのが欲しいと言うと集まって、じゃあやりますよ。と登録をしてやるものだが、シニア世代がいっぱい余っているので、シニア世代も活用できれば喜んでやるようなことがあるのではないか。そういう人たちを含めた学校支援の仕組みづくりができればいいと、この前の講座を聞いて思った。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今、私の勤めている薬師寺小学校では地域連携など進めているので現在、本当にボランティアが欲しいと思っている。今日も定期的に入っているシニア世代のオカリナのボランティアがお昼休みに来ている。それから交通安全教室なども警察の方が是非ということでお声がけしてくれた。学校の中でボランティアの組織を作っているが、30～40代の方が本当に忙しく、学校が本当に必要なときや我が子のことに関することは来てくれるが、それ以外のときに来てくれる方は子育て世代にはなかなかいない。先ほど話が出た交通安全ボランティアも薬師寺小学校は昔からの地域見守り隊が出来ている。それなくしては学校の安全な登下校はあり得ない。ただ、70代後半の方が「申し訳ないけどリタイアさせてください」と言われても、60代の方に引き継いでくれる方がいないので、そこが空洞になってしまうのが現実だ。</p>
五月女委員長	<p>各学校でいいものを持っているところはある。それを全体的に使えて、いい例をモデルにして出来るような仕組み作りが出来ればいい。さっき言ったシニア世代も自分はこのことが出来ると登録したが、全く声が掛からないのでつまらないから辞めてしまう人もいる。でもそれはそれでその特技が学校にすぐに役立つかということそういうわけでもない。学校側からこういうことについて手伝ってもらいたいということを出せば、どこでもそれは同じようなことは出来ると思うし、具体的に分かれば、それやるよ。と集まりやすい。下野市内で同じ基準で出来たらいい。この間、校長会の研修があり宇都宮の城山小学校の発表を聞いてきたが、シニアの方に放課後に来て頂いているような講座を設ける。授業では学べないことを学べる。子どもとシニア世代のコミュニティの場になるのかなど。薬師寺あたりは本当にそうなったらいいと思いながら、今、取り組んでいるが、現状で子どもを残せない。子どもを残せないという現実が安全も含めて出来れば、もっとシニア世代の方に入って頂ける間口が広がる。</p>
鈴木委員	<p>放課後残るのではなく、道德の時間とか授業の一環でシニアに入って頂くかたちはとれないのか。</p>
橋本委員 鈴木委員 橋本委員	<p>道德が教科化になったので、それはどこでも思っていると思う。</p> <p>手を挙げてても声が掛からないと自分から主張して、私にそれをやらせてくださいというのは難しい。せつかく登録しているのだから遠慮せず、それを活かして頂けると、登録した甲斐があり、やりがいがあることを次の方に伝えることが出来るので、フルに学校においても、そういう事業の一環としてやってもらえれば問題ないと思う。</p>

五月女委員長	今のシニア世代がボランティアで学校に行くと、例えば戦争体験の話 を学校からの要請でお話すると、教科書で4年生でほしい1回しか ない。だからその1回を他の学校に振り分けるコーディネーターが必要 になる。そういう人を例えば年に何回か、コーディネーターの人たちが そういうボランティアの方々を集めて、そういう説明をしながら親睦を 深めていく。そして地域の輪を広げていく方策はある。
齋藤委員	私も以前、薬師寺小学校に最後の年にいたが、PTAの役員さんがコ ーディネーター役をやられて、そこをお願いすると返ってくるという仕 組みでスムーズに出来た。
五月女委員長	PTAの人がコーディネーターをやるのも非常に望ましいことだが、 実際PTAの役員の人たちは学校の行事とか広報とか常に大変なので、 それを時間に比較的余裕のあるシニア世代の人たちにボランティアでコ ーディネーター役をやって頂けると非常に活動の幅が広がり、人脈も多 く集められると思う。そういう方策を社会教育の中でどうやっていくの かということも1年かけて協議していくとよいだろう。
今村委員	自分の子どもが小学生の時にPTA会長をやったが、PTA役員の立 場から言うと、管理職の先生が変わると、昨年まで出来ていたことが出 来なくなってしまうことがある。地域差があるので難しいかもしれない が学校の中でもある程度統一性を持たせないとできないと思う。また委 員長が言ったように、PTA役員はとても忙しく、仕事の傍らPTAの 役員もやって、更に他のことまで見直されるとなるとPTAの役員のな り手がいなくなってしまうので、そこは時間があって、力のある方にや ってもらえるといいと思う。あと交通指導員の件だが、自分の子どもが いた小学校のスクールボランティアで緑のベストを着て、子どもたちが 下校したり、習い事に行くために移動する時間帯に歩いたりするが、お 年寄りの方もベストを預かっていて、駅の前とかにいつも同じお年寄り の方とかが立っていて、見廻り、見守りをしてきている。もちろんPT A役員が横断歩道のところに立って、私も黄色い旗を持ってやっていた とき、早く渡さないと変わってしまうから、もうまとめて渡そうと一列 で来ても班長の周りに集まってとにかくみんなで渡りなさいと。渡り終 った後に体制を立て直しなさいと教えていた。ただ小学生がというより は、悪い車がいる。止めているのに来たいと。そういうこともあるので子 どもの下校の状況がということもあるが、車の方にも責任があったり、 怖い自転車とかもいたりすると思います。
五月女委員長 橋本委員	ありがとうございます。 先ほど登下校の話をしていたが、中学校はある程度距離があると自転 車通学OKですよね。
坂口委員	石橋は全員。
橋本委員	どんなに近くても自転車で通っていいのか。
坂口委員	はい。
橋本委員	うちが通っていたときはキロ数が決まっていた。何キロ離れたら自転

今村委員	<p>車通学OKということを知ったときに、小学校でもある程度距離が学校から離れているところはスクールバスを出してもらえないかと思っていた。雪の日とか雨の日は距離が長ければそれだけ濡れて、結局上下全部着替えを持って登校する様子を見ていたので。遠くを一人で歩かせることも心配だし、ある程度集団下校が出来るならスクールバスを出して安全を図ってもいいと思う。</p>
桑島委員	<p>私が学校で役員をやっていた時に、ご年配の方にいろいろお願いしようとしてもその方たちが忙しく、私たちの希望の予定と合わないことがある。知っている高齢者は大体忙しい。こういうなんとか会に入っているとか、自治会長さんやっていると。私は民生委員もやっているので、例えばご高齢のお宅に訪問したりするとお仕事されているのかずっといない方もいる。余裕のある方をどうやって探すのか。</p> <p>ひとつは仕事をしないとやっていけない方もいっぱいいる。あとは暇があるけどやる気がない。それを引くとかなり少なくなる。暇があってもやる気がない方にどうやってやる気を起こさせるかということもある。話は変わるが、私は高校の教員をやっていたが、義務教育を終えた後、高校が地域と結びついてない感が現役の時からかなりあった。ただ最近いろいろな動きがあって、最終的に勤めていた栃木の学校では、空き家対策として空いた商店に「まちカフェ」のようなものを作って、アイデアやプランを高校生のコンペで募集をして、その運営までどうやるか学校の中から出させて、それをプレゼンしてということ、都市計画が専門の大学の先生をコーディネーターに呼んで。はっきり申して部活動とか生徒会とかやっている子は無理なので、嫌々ながらもなんとかやってくれそうな子を見つけて任せるところ、だんだん面白くなり、最終的に進学先がそういった都市計画。言いたいのは、高校生も何とかできないのか、今、申しましたような何かに参加して、自分も発言出来るような場を与えると高校生も結構考える。ただ小中学生の安全対策とかは年齢的に責任を持ってない。女の子には小さい子の面倒を見るのが好きな子がいるので、行事の時の保育までいかないが、高校生を上手く使うといいのでは。小中学校も同じだと思うが、高校も学習指導要領が変わってやるが増えており、そこにまた県や市からとか言われると、また来たなとなる。以前、研究学校を何かでやった時に、要は何もやらないでOKだよという風にして皆さんにやってもらったことがある。既存のものの中に、もう出来ているものがいっぱいあるので、今やっていることや、学校のシステムとかをきっちり見直せば新たな負担には必ずしもならない。そこをまず教員がしっかりやって、そういうことを言ってあげると安心して教員も協力してくれると思うし、やりようによっては県立学校だけでなく私立学校もできるので、ある程度動けて判断できる高校生というのを何とか活かさないものか。</p>
齋藤委員	<p>今、話し合っているこの課題はいろんな切り口がある。授業を通してだとか、安全確保とか、高校生と連携したりとか、どうするかたちで、ど</p>

花澤副委員長	<p>ういう場で、コーディネーターをどうするか、いろんな切り口が考えられるので結構いい課題だと思う。何よりも去年やられたという公民館振興計画の中の学校・家庭・地域との連携支援にも絡んで、公民館もその辺は力を入れて考えておられると思うので、その辺ともリンクしてくるのでいいと思う。</p> <p>私は初めて高校生の実体験云々というのはあまり聞く機会がなかったのでいい勉強になった。先ほどの空き家対策の例では、何人くらいの子が活動に参加したのか。</p>
桑島委員 花澤副委員長 桑島委員	<p>2、3人である。</p> <p>それがずっと続いたということか。</p> <p>それはポツンと。弊校の話で恐縮だが、文科省関係のSSHを理系だけではなく文系の方も何とかいろいろやらせようと学校全体で一生懸命やりましょうと。学校としてはそういうものに取り込めるから一石二鳥になる。新たなものを次々と積み重ねるのではなく、整理をしていく。例えば動ける人数は結構いるので。</p>
五月女委員長	<p>壬生高校の子どもたちが、まちづくりのボランティアとかそういうものに参加している。</p>
桑島委員	<p>夏祭りとかも高校生を活用している。体育祭なんかも支援している。30人から40人。</p>
花澤副委員長 五月女委員長	<p>そんなに。</p> <p>さて、時間も押し迫ってきたので、この辺で今年度のテーマについてまとめていきたい。今までの話をまとめると、今年度、協働のまちづくりを柱にして、学校支援の在り方について取り組んでいくのはどうか。という意見が非常に多いと思うがいかがか。</p>
事務局	<p>こちらとしてはそれも課題のひとつなので取り組んでいただければと思う。</p>
五月女委員長 事務局	<p>正式なテーマについては次の協議会のときに。</p> <p>皆さんの話を整理して、テーマなどもこちらで案をつくって、次回の会議までにお示しする。併せてこれから検討していくうえで必要な関係書類、資料なども。</p>
五月女委員長 事務局	<p>できれば学校教育課と。</p> <p>学校教育課と関係機関と調整してお示しする。</p>
五月女委員長 事務局	<p>続いて議案（3）社会教育団体の補助金交付について説明を求める。</p> <p>資料3に基づき説明。</p>
五月女委員長 五月女委員長 事務局	<p>2団体から申請があったがいかがか。</p> <p>申請がだいぶ減ってきているようだが。</p> <p>昨年度まで申請のあった市民会議とPTA連絡協議会は、補助金がなくても活動できると昨年度から申請はなく、今年度もなかった。</p>
五月女委員長	<p>両団体とも支援をしていく必要があると思われるので申請通り許可をしていいか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>



五月女委員長 事務局	議事については以上で終わりとなる。続いて、その他のほうを。 下野市生涯学習推進委員の選出について説明。
五月女委員長 事務局	もうひとつの栃木県社会教育委員協議会評議員及び理事について。 事務局より説明。
五月女委員長	ひと・まちづくり講演会について説明。
事務局	では次回の会議の開催日の調整をしたいと思います。 <委員間で日程調整> 次回は、10月4日（木）午前中ということでお願い致します。 その他が終了しました。以上で閉会と致します。